ゆめみ

新しい龍伝説で
わくわくする
人を
増やしたい。

龍伝説をもとに想像して創造する

伝説というものは曖昧なものです。だからこそ、そこに「○○だったかもしれないし、△△かもしれないね。」と想像する楽しみがあると思います。

ゆめみ事が4年目となる今年は伝説・伝承に焦点を当てて活動しています。伝説・伝承が語り継がれにくくなっている現状があるからです。伝説・伝承が持つ意味が現代の私たちにとって必要のないものになり、語り継ぐ機会が失われているのかもしれません。しかし、これを仕方がないことだと受け入れてしまうのは、少し寂しいなと感じます。後世の人々が竹田の伝説を「知りたい」と思ったときに、知り得る状態、そこに伝説が当たり前にある状態にしたいと考えています。

伝説・伝承を将来に伝えていくために、竹田に語り継がれる伝説を基に「新しい龍伝説」を作りました。様々なものを組み合わせた「新しい龍伝説」を通して、竹田の伝説・伝承を身近に感じてもらい、興味を持つきっかけとなることを期待しています。

ディレクター
村中 夏海　立命館大学文学部人文学科日本史研究学域日本史学専攻 3

メンバー
宮本美紗季　京都精華大学芸術学部造形学科日本画専攻 4
上西古都　京都精華大学芸術学部造形学科日本画専攻 4
加藤里歩　同志社大学政策学部政策学科 4
賀城喜之　京都精華大学芸術学部造形学科日本画専攻 3
橋本龍舞　京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻 3
浅野遥香　同志社女子大学看護学部看護学科 2
戸田なみ　金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科 2

2020 年メンバー（参加当時）
山中菜月　京都精華大学デザイン学部建築学科 4
橋田果歩　京都工芸繊維大学デザイン・建築学課程 4
小仲涼　京都府立大学文学部日本・中国文学科 4
高橋真衣　立命館大学文学部人文学科日本文学研究学域 1

2020 年のゆめみ事

オンラインでヒアリング

2020 年のゆめみ事は「洛中洛外図屏風 in 竹田」を制作しよう！ということから活動をスタートしました。竹田の伝説・伝承や日常を後世に伝えたいという想いがあったからです。

そこで、竹田での思い出や出来事をオンラインで地域の方にヒアリングしました。ゆめみ事のテーマである竹田の龍伝説も表現していこうと考えていたので、竹田の龍のイメージについてもヒアリングを進めていきました。

その過程で「屏風だと置く場所が限られる」という懸念点があったため、別の表現方法を検討することになりました。

一人ひとり想像する龍は違う

ヒアリングを行っていく中で、竹田の方々が想像する龍の姿は角が生えていたり蛇のような姿だったりと、一人ひとり違うことが分かりました。この事実は大変興味深く、ゆめみ事の活動の中で活かしていきたいと考えるようになりました。お聞きした龍のイメージをどのように表現するか、まとめていくか…。図鑑などの案を経て、2021 年の活動の基となっていきました。

2021 年のゆめみ事

「新しい龍伝説」の創造

地域の方からヒアリングした龍のイメージと既存の伝説を組み合わせ、6 名の方が想像するお話を創造しました。

「龍の雪囲い」の制作

「新しい龍伝説」を表現する媒体は、竹田の日常に溶け込むと同時に視覚的にインパクトのあるものにしたいという思いがありました。そしてたどり着いた表現方法が、竹田なら全戸がお持ちの「雪囲い」でした。

2021 年は 3 軒のお宅に「龍の雪囲い」を設置させていただきました。竹田の冬に彩を加え、地域の方だけでなく、竹田を訪れる観光客にも楽しんでいただければと思います。

「ゆめみ団扇」の制作

もとの龍伝説と「新しい龍伝説」を掲載し、じょんころカーニバルで配布させていただきました。

「ゆめみ跡」の制作

「新しい龍伝説」の詳細や、ヒアリングして集めた竹田の伝説・伝承、年表には載っていないちょっと昔の話を掲載した冊子です。

「新しい龍伝説」

竹田にはたくさんの伝説・伝承がありますが、現在失われつつあります。元の龍伝説 × 想像した龍 × 他の伝説 × 思い出 × 好きな景色を組み合わせることによって、伝説をより身近に感じてもらい、後世へと伝えていくきっかけを創りました。

恒龍憤激（こうりゅうふんげき）

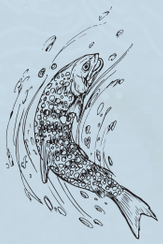
作者コメント

人前では姿を現さず見えない龍が、山奥で荒波を踏み荒らし、ものともしない様を描きました。

また、人々の欲にまみれた行いが、普段は姿を見せず優しく鹿のように大人しい龍を激怒させてしまったところも、物語に沿って表現しています。人々の行き過ぎた欲や行いに怒り、嘆く心優しき龍の憤怒の駆けりを感じてもらえると幸いです。

普段は使用しない乾き方が独特な塗料の扱いにとても苦労しましたが、満足のいく作品になり嬉しく思っています。

（上）雪囲い制作中の賀城
（下）雪が積もったら…



制作者の賀城（右）と雪囲いを設置させていただいたお宅の山岸裕和さん（左）

Q 雪囲いの感想を教えてください。

山岸 「日本画をやっている人たちの描く龍は基本的に飛んでいるものが多かったり、白銀色だったりする。だけどくすんだ自然な色を使っているし、水を掻き分けている様子が、その場所に住んでいるという生き物らしさがあるように描いてくれて、イメージ通りでしたね。」

Q 雪囲いの反響はいかがですか？

山岸 「自分の孫が一番喜んでいましたね。最初は怖がるかなと思ったけど、怪獣や恐竜などが好きな子だからか「ドラゴンがいる！」と、雪が積もっているのに見に行くほど喜んでいました。素直にかっこいいと感じているんだと思います。」

ちょこっとタイトル解説

このタイトルは「慷慨憤激」という四字熟語から着想を得ました。「慷慨憤激」の意味は、「世の中の不正や、自分の不運などを激しく憤り嘆くこと」です。これを「恒龍憤激」という形にすることで、「恒」に穏やかな「龍」が人々の身勝手さに「憤激」する様子を表現しました。

東風舞うとき花ほほえむ（こちまはなほほえむ）

作者コメント

雪囲いの右側から左側に物語が進行していく様子を描きました。

竹田が豪雪地帯ということで、雪で作品が埋もれてしまうという懸念がありましたが、それを逆手にとって雪で埋もれることを前提に、雪の積もり具合や解け具合で見え方が変化するように描いています。

一番上側は竹田のしだれ桜、真ん中はまだ解け残っている雪を表す白い河、一番下側は雪が解けきったときに見える自然の緑を描いています。菱餅と同じ構造で、大まかにピンク・白・緑の三色になっています。

（上）雪が積もったら…
（右上）他の案イメージ
（右）エスキース図

制作者の上西（左）と雪囲いを設置させていただいたお宅の竹田裕喜子さん（右）

Q 雪囲いの感想を教えてください。

竹田 優しい色合いで、雪が降ったら色が映えていてきれいでした。最初は「どうなるのかな？」って思っていたけれど、私が思っていた通りに描いてくれて、より龍に愛着が湧きました。雪囲い設置のときに、みんなで撮った記念写真もいい思い出です。

Q 雪囲いの反響はどうでしたか？

竹田 わざわざ見に来てくださった人もいました。宅配の人にも聞かれて、説明したら「いいですね！」とのことで、雪囲いに和んだのかもしれませんね。あと、うちの娘も「とってもいい」って、お母さんの想いが絵になるってすごいねって言っていました。

ちょこっとタイトル解説

「東風」は春にふく東の風です。また、「東」は古来より龍と関係が深い方角ですので、「東風」で春の風と龍を意味しています。「花」は平安時代には花＝桜という認識があったそうで、新しい龍伝説に登場する桜を表現しています。「ほほえむ」は「笑む」と「咲む」の２つの意味を示しています。

「龍の雪囲い」

小さな約束と守り人

作者コメント

H.R

「小さな約束と守り人」を絵巻物のように描きました。作風はエジプト壁画を参考にした抽象的なデザインとなっています。絵の中段や下部に描かれた青い部分は荒れた波、白いギザギザはカミナリを表しています。物語の主役となる龍と河童を際立たせるため、それ以外の登場人物の目などはあえて描かずシルエットだけに。この絵には、具体的な描写はありません。なので、この物語に登場した人物はどんな人だったのか、どんな景色だったのか、作品をご覧になった皆様がそれぞれ違った物語を想像し、楽しんでいただけると嬉しく思います。

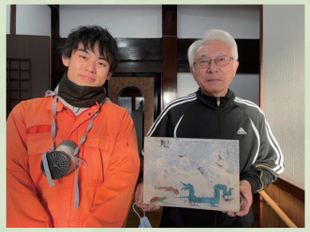
（上）設置完了で集合写真！
（右上）雪囲い制作中の作者
（右）雪が積もったら…

Q 雪囲いの感想を教えてください。

畑 うちに飾っているのは、エジプトの感じでね、これはこれで良いと思うよ。なかなか味がある。龍かどうかは見る人によって違うかもね（笑）

Q 雪囲いの反響はどうでしたか？

畑 大げさな反応とかは特に無かったね。説明すると「あぁそうか」って感じだった。雪が溶けてから千古の家に遊びに来る人もいると思うし、雪囲いを外すタイミングでまたどこかに飾るのも良いね。



制作者の橋本（左）と、雪囲いを設置させていただいた畑清隆さん（右）

ちょこっとタイトル解説

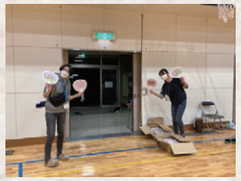
この雪囲いの基となった「小さな約束と守り人」では「約束」がテーマの一つとなっています。また、伝説の中に登場する河童が龍から「子どもたちを見守る」という役割を与えられていることから「守り人」という言葉を入れました。このタイトル以外に「キューカンバーボーイ」という案も出ました。

「ゆめみ団扇」

2種類の「ゆめみ団扇」を制作しました。

片面には地域の方が子どもたち向けに書かれたものを要約し、もとの龍伝説を前後編で掲載。もう片面には、ゆめみ事で創造した「新しい龍伝説」のうちの「東風舞うとき花ほほえむ」と「小さな約束と守り人」を掲載しました。

そして、完成した「ゆめみ団扇」をじょんころカーニバルで竹田の皆様に配布させていただきました。



「ゆめみ跡」

「ゆめみ跡」という、冊子を制作しました。「新しい龍伝説」をもとに制作した雪囲いを通して、竹田の伝説・伝承に興味を持ってもらえるような入口を創ることができたと思います。

そして、竹田の伝説・伝承を本来の形でも知ってもらうべく、既存の竹田の伝説・伝承はもちろん、「新しい龍伝説」を詳細に記した「ゆめみ跡」を制作することにしました。また、この冊子の中にはヒアリングの過程でお聞きしたちょっと昔の話も掲載したいと考えています。年表に載ってはいないちょっと昔の話は、世代が少し違うと知らないという声も多く、伝説・伝承のように失われつつあることに気が付いたからです。

「ゆめみ跡」を通して、竹田の伝説・伝承を伝えていくと同時に、竹田の昔の「日常」を感じていただくことを目指しています。

これからのゆめみ事

2021年のゆめみ事は、竹田の伝説・伝承を後世に伝えていくために活動を展開しました。龍の雪囲いを通して、竹田の伝説・伝承に興味を持っていただけるきっかけを創れたのではないかと思います。

来年度の活動としては、竹田内で伝説・伝承の更なる浸透を目指すとともに、竹田外の方にも竹田の伝説・伝承を広めていきたいです。雪囲いの展示について、ありがたいことに、「春から秋の間は人の目に付くところに展示してはどうか」というお声をいただくことが多くありました。私たちとしましても、竹田内外の方の目につく場所に展示したいと考えています。龍の雪囲いを通して竹田内外に「竹田は龍の町」という認識が広がっていけばいいなと思います。

現在、竹田の方に伝説・伝承についてお聞きすると、「○○さんが詳しい」「○○地区の人に聴いたほうがいい」というお声をいただきます。これが将来、「竹田には○○っていう伝説があるんだ！」と誰しもに言っていただけるようになることを目標としていきたいと思っています。